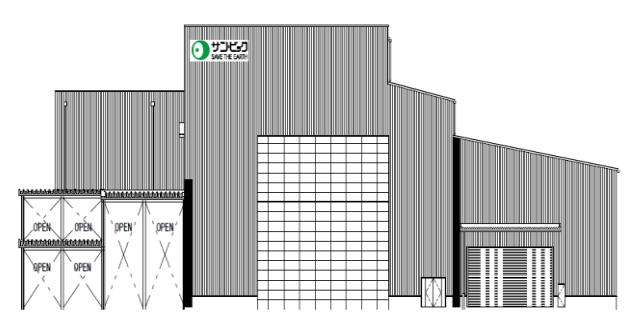


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)サン・ビック半田工場 焼却施設	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県半田市日東町1番7.2番8	構造	SRC造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年11月 予定	評価の実施日	2022年6月5日
敷地面積	5,263 m <sup>2</sup>	作成者	小室 武
建築面積	2,870 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月10日
延床面積	3,972 m <sup>2</sup>	確認者	小室 武



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 86%  
 ③上記+②以外の 86%  
 ④上記+ 86%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.0**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">29.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>						0.32			<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>						0.1	<b>3.0</b>	0.15		<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.40		
1.2 遮音						<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40		
1 開口部遮音性能							3.0	0.60		
2 界壁遮音性能							3.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音							<b>3.0</b>	0.20		
<b>2 温熱環境</b>						<b>0.3</b>	<b>3.0</b>	0.35		<b>3.0</b>
2.1 室温制御						<b>0.5</b>	<b>3.0</b>	0.50		
1 室温						3.0	3.0	0.38		
2 外皮性能						3.0	3.0	0.25		
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	0.38		
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.20		
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>						<b>0.2</b>	<b>3.3</b>	0.25		<b>3.3</b>
3.1 昼光利用						<b>0.3</b>	<b>4.2</b>	0.30		
1 昼光率					昼光率2.5%以上	3.0	5.0	0.60		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		
3.2 グレア対策						<b>0.3</b>	<b>3.0</b>	0.30		
1 昼光制御						5.0	3.0	1.00		
3.3 照度						<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.25	3.0	
<b>4 空気質環境</b>						<b>0.2</b>	<b>3.6</b>	0.25		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策						<b>0.5</b>	<b>4.0</b>	0.50		
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆をほぼ全面採用	3.0	4.0	1.00		
4.2 換気						<b>0.3</b>	<b>3.3</b>	0.30		
1 換気量						3.0	3.0	0.33		
2 自然換気性能					居室面積の1/30以上	3.0	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.33		
4.3 運用管理						<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.20		
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	3.0	0.50		
2 喫煙の制御						3.0	3.0	0.50		
<b>Q2 サービス性能</b>								0.30		<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>						<b>0.4</b>	<b>2.8</b>	0.40		<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40		
1 広さ・収納性						3.0	3.0	0.33		
2 高度情報通信設備対応						3.0	3.0	0.33		
3 バリアフリー計画						3.0	3.0	0.33		
1.2 心理性・快適性						<b>0.3</b>	<b>3.0</b>	0.30		
1 広さ感・景観(天井高)					事務所天井2.7m	3.0	4.0	0.33		
2 リフレッシュスペース					2階食堂はリフレッシュスペースとして採用	3.0	4.0	0.33		
3 内装計画						3.0	1.0	0.33		
1.3 維持管理						<b>0.3</b>	<b>2.5</b>	0.30		
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保							2.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>0.3</b>	<b>2.8</b>	0.31		<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.48		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>0.3</b>	<b>2.7</b>	0.33		
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					②		3.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							3.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔							2.0	0.23		
2.4 信頼性						<b>0.1</b>	<b>2.8</b>	0.19		
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備						3.0	3.0	0.20		
3 電気設備						3.0	3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20		
5 通信・情報設備						3.0	2.0	0.20		

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	0.3	3.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		工場部分: 階高3.9m以上		0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3500N/㎡以上～4500N/㎡未満		0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.42	3.0	5.0	0.22	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.8	3.0	3.0	0.47	-	-	3.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器採用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	-	3.0	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	-	5.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率86%	-	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			ガス設備無し	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	
1		独自	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2		独自	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3		独自	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1		独自	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2		独自	振動	-	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	
3			日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	
			広告照明無し	-	-	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:29.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)サン・ビック半田工場 焼却施設

計画上の配慮事項	
総合	建築物内部の環境を高めるだけでなく、周辺環境に対する影響を抑えるよう計画している。
Q1 室内環境	内装仕上等はF☆☆☆☆とした。
Q2 サービス性能	会議室等の天井高を2.7mとした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地に最大限の緑地を設けるよう配慮する。
LR1 エネルギー	エネルギー消費量に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を採用した。
LR3 敷地外環境	適切な駐車場台数を確保している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。